大分大学医学部附属病院女性医療人キャリア支援センター　Career Path Support Center for Medical Staff

News Letter

2016.11
Vol. 09

Contents

- 意識啓発セミナー開催
- 「問題解決実践型授業」見学
- 「九州大学きらめきプロジェクト 10周年記念講演会」に参加

活動報告

平成28年度第1回意識啓発セミナー開催

9月15日（木）挾間キャンパス臨床中講義室において、平成28年度第1回女性医療人キャリア支援センター意識啓発セミナーが開催されました。講師にお迎えしたのは、宮崎大学の医療人育成支援センター教授の小松弘幸先生。

今回のセミナーでは、まず最初に、大分大学医学部附属病院の医局の復帰・継続・活躍支援の取り組み発表をしていただきました。

小松先生

腫瘍・血液内科の緒方先生からは、「女性医師を決して二軍と思わない」「キャリアアップに責任をもつ」「大変な状況を理解しサポートする」「外勤やローテーションなどで給与に配慮する」「関連病院を含め、グループ全体で支える体制を作る（大学以外にもママさん体制の病院を作る）」というママさん女性医師への支援内容をあげて下さり、すぐには解決できないことばかりだが、できることから少しづつ、みんながHappyに。と腫瘍・血液内科の取り組みを発表してくださいました。

産科婦人科の平川先生は、実際に同僚の方々や上司にインタビューしてくださり、その内容や、ご自身の子育てと仕事の両立の経験をふまえ、発表してくださいました。産婦人科の女性医師は年々増加しており、皆、悩みながら働き方を模索しているが、産婦人科では、医局の理解と強力なサポートで、個々の状況に合わせて柔軟に対応している。そしてキャリア形成にも前向きであるとまとめられていました。

小松弘幸先生の講演は「医療人夫婦のワークライフバランス～夫は変わる？変えられる？」「キャリアは誰のためのもの？」の2部構成で進められました。

まず「医療人夫婦のワークライフバランス～夫は変わる？変えられる？」では、宮崎大学での現状や取り組みをご紹介いただき、「個人の問題」と「システムの問題」を整理することが大事で、ただしワークライフバランスのあり方や価値観は人それぞれで、結局は「みんなが少しずつ譲り合う、少しずつ折れる」が出来るかどうかが鍵（共存共栄）だとまとめられました。

緒方先生

「キャリアは誰のためのもの？」では、ご自身の選んできた道、選択してきた道を振り返り、「正しい選択かどうかを予見することは出来ない。自分の行いの結果が正しい選択だったかどうかを決める」。環境への不満を訴えるより、“現状での最善策は何か”を考えられる人が新たなチャンスを手に入れ新しい発想を生み出す。リスクはチャンスで、リスクに飛び込んだら「幸福の計画的偶発理論」が作動するかもしれません。と講演いただきました。

平川先生

参加者の皆さんからは、「“女医”ということだけでなく“医療人”としてどのような意識を持って働くのか、とても考えさせられました」「個人をとりまく環境が“ゆずりあう”“支えあう”ことが大切だと思いました」「大変ためになりました。このようなセミナーを通じて意識が少しずつ高まっていくと思います」などの感想が寄せられ、それぞれのワークライフバランスやキャリアについて見つめなおす良い機会になったのではないでしょうか。

パパの会（PENGUINS）メンバー募集！

普段はなかなかゆっくりと話せない事も、
同じパパ目線で語り合ってみませんか？
お問合せや参加希望は
女性医療人キャリア支援センター（内線5715）まで。

お知らせ

なかよし保育園でPHSが使えるようになりました！

仕事の休憩中になかよし保育園に授乳に行ったりする職員の方から、「保育園でPHSの受信が出来ないので、急な呼び出しや連絡に対応出来ず不便だ」との意見があり、センターよりPHSのアンテナを付けてもらえるよう要望を出していました。

活動報告

「キャリアに関する問題解決実践型授業」を見学しました。

本学の医学教育センター　中川幹子先生の担当で7月8日に開催された「健康科学概論」のグループ討論の発表会の中で、キャリア教育の部分について見学してきました。

医学部　医学科・看護学科の1年生を対象とした合同授業で、合計160名くらいの大人数で講義室は一杯でした。講義は、発表も学生、なんと司会進行も、そして発表に対するコメントもすべて学生のみで行われていました。しかも、先日行われたグループ討論の方法には、KJ法と二次元展開法が用いられていました。

テーマは2つあり、その1つが、「医療人として男女ともにキャリアを継続するためには何が必要か」という、18－20歳ぐらいの学生が考えるには想像力や社会的な知識を必要とする難しいテーマでした。しかし、既に「健康科学概論」の授業の中で、男女共同参画、プロフェッショナリズム、キャリアパスに関する講義が実施されていましたので、学生たちはスムーズに討論に入り込めたようでした。

グループ毎にディスカッションの内容を発表するため、様々な提案がなされましたが、それぞれに興味深く、彼らなりの視点を聞くことができました。社会的制度として、子育て支援制度の充実や休みの取りやすい環境作りをあげたグループもあれば、周囲の協力や意識改革、コミュニケーション能力を重視したグループもあり、多様な意見が出たことに驚きました。

実際に彼らが「医療人」となるのは4－6年後、キャリアを形成しながら「家庭人」（両親の介護等も含め）になるのは、もう少し先かもしれません。しかし、このような授業を一度でも受講し、キャリアパスにおける問題について早くから意識することは、非常に意義深いことだと思います。多職種で形成される医療という現場は、ただでさえ忙しく、ミスの許されない現場だからこそ、同僚や患者の抱える問題やその背景までを推察できる医療人を育てることが重要だと感じました。

（文責 中田　健）

学生発表の様子

授業風景

活動報告

「九州大学きらめきプロジェクト10周年記念講演会」に参加しました。

9月20日（火）九州大学きらめきプロジェクト10周年記念講演会が九州大学医学部百年講堂大ホールで開催され、センターよりスタッフ2名が参加してきました。

きらめきプロジェクト十年記念講演会ということで、会場の九州大学医学部百年講堂大ホールには200名以上の参加がありました。前半の活動報告では、発足当初のきらめきプロジェクト利用者は2名ということでしたが、10周年を迎え年間に20名を超える利用があり、復帰支援として着実に効果を上げているとのことでした。また、男性も利用できるということで、「きらめきプロジェクトを利用した男性医師はいないのでしょうか」という質問では、男性からの申出はあったそうですが、主計者であるため、勤務時間が週20時間未満のきらめきでは、勤務時間が少ないので、生活を考え、医局で時短の対応をしてもらったとのことでした。今後、医師夫妻等で利用してくれる方が出てきてくれれば、対応していきたいと、きらめきプロジェクト副センター長の樗木先生がお答えしていました。きらめきプロジェクトを利用された、第1期生の2人の女性医師の体験では、短時間でも辞めずに続けられる支援があることで、キャリアを継続できることが分かりました。

後半の記念講演では、3人の方が講演をされましたが。様々な立場の方が、女性の支援をされていることが分かりました。九大名誉教授の水田先生は、女性医師の先駆者としていろいろな課題を乗り越られており、「無理なことはさせずに楽なことをさせるのは支援ではない」、「女性の涙は汗だと思ってくださいという」というお言葉から、女性医師をきちんと育てたいいう思いを感じました。久保先生、古川先生のお話しでは、両先生も女性を登用する環境を十分に作っているように感じました。

会場には子ども連れでの参加者もおり、九州大学でのきらめきプロジェクトの実績が感じられました。今後、少しずつになるとは思いますが、大分でも取り入れられそうなことを提案していきたいと思います。

Career Path Support Center for Medical Staff
編集・発行元　大分大学医学部附属病院女性医療人キャリア支援センター
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地　福利厚生棟1階　教職員休養室内
TEL/FAX：097-586-5715　E-mail：carsupport@oita-u.ac.jp　HP: http://www.med.oita-u.ac.jp/carsupport
OITA UNIVERSITY